第１回　江府町義務教育学校設置準備委員会【議事録】

■期 日：令和２年 ５月２８日（木）
■時 間：１９：３０～２１：００
■場 所：防災・情報センター ２階　研修室

＜会議出席者＞
【委　員】手島委員、井上委員、谷田委員、中田委員、河上委員、宮本委員、川上委員
稲田委員、山川委員、北村委員、梅林委員、瀬尾委員、竹内委員
【事務局】富田教育長、加藤課長、景山学事担当課長、岡田主事

1　開会　＜事務局進行＞
＊辞令交付　　＊報償費について

2　教育長挨拶

昨年度、小中一貫教育推進検討委員会を７回開催していただき江府町のこれからの学校のあり方についてご協議いただき、令和４年度から義務教育学校としてスタートすることの結論を出していただいた。

今年度から２年間は、この義務教育学校設置準備委員会本委員会で、義務教育学校の開校に向けて議論をしていただきたいと思っている。スケジュールもお手元の資料にあるような内容について話合いをしていただく予定にしている。また、後ほど事務局のほうから説明させていただくが、国が新しい時代の初等中等教育のあり方について、ある程度方向性を出してきている。本町が新たな学校を開設するタイミングで、教育について大きな変化が起ころうとしている。

江府町の子どもたちが最良の教育環境のもとで学習でき、学校生活を送ることができますように皆様方のお力をお借りしたい。

3　委員紹介

	氏　名	所　属
1	手島　征夫	地域代表・学識経験者
2	井上 廉女	地域代表
3	谷田　孝之	地域代表
4	中田　　尚	地域代表
5	河上　定弘	保護者代表（保育園）
6	宮本　佑介	保護者代表（保育園）
7	川上　剛司	保護者代表（小学校）
8	稲田　眞一	保護者代表（小学校）
9	山川　達矢	保護者代表（中学校）
10	北村　　愛	保護者代表（中学校）
11	梅林　明宏	子供の国保育園　園長
12	瀬尾　美佐子	江府小学校　校長
13	竹内　貴美	江府中学校　校長

４　説　明＜事務局＞

委員の方の中には、昨年の推進検討委員会の委員だった方がたくさんおられ、流れをよくご存じの方もおられるが、今回初めて委員を引き受けてくださった方もおられるため、少し昨年からの流れ、昨年確認したことについて、再度ここで確認をさせていただきたい。

＜保小中一貫教育ビジョン＞

昨年度の推進検討委員会で、ご協議いただいた内容。会議録を見ると、言葉をどうすべきか、コミュニティスクールとの関係性はどうあるべきか、そういったこともしっかりご協議いただき、このようなビジョンが出来上がったと把握している。これからいろいろなことについて話し合っていただくが、この教育ビジョン・保小中一貫教育目標「ふるさとに夢を描き、まち、ひと、みらいとつながる江府っ子」、こういう子どもたちの育成を目指して義務教育学校がどういう形がいいのかをご協議いただくということでお願いしたい。ちなみに保小中一貫教育目標は、コミュニティスクールの目指す子ども像と一緒にするということで、コミュニティスクールでも、この義務教育学校においてもそのような方向の子どもたちを目指すということで、昨年度確認がされている。

＜「義務教育学校設置準備委員会スケジュール（一部修正）」について＞

これも、昨年度の推進検討委員会の方でもご確認いただいた、今後のスケジュールとなっている。開校に向けて、いろんなことを進めていかなくてはならない。ここに挙げていないこともあるかもしれない。細かく言えば、いろいろな部分が出てくると思う。昨年検討委員会の中で「スケジュール感をもって」ということもあり、ここでもう一度確認をさせていただきたい。

なお、この後、校名、校舎名についての募集についてご協議いただくが、昨年度のスケジュールの中では、学校名と校舎名は、７月・８月・９月の３か月の公募期間となっていた。県内の鹿野学園、江山学園は、どちらも公募の期間は１ヶ月であったため、あまり長いのもどうかということもあり、それを踏まえて１ヶ月の公募とさせていただいた。その後２ヶ月かけて決定をして、決定の通知、表彰という形も書かせていただいている。それが昨年度から少し変わった点であるので、ご確認いただきたい

５　協議

（１）　役員選出（互選）＜進行：事務局＞

※委員長：手島征夫委員、副委員長：谷田孝之委員が選任された。

（２）校名・校舎名募集について

委員長　　協議事項の校名・校舎名の募集について最初に説明があったが、１ヶ月に縮めてということがあった。再度、ご説明いただきたい。

事務局　　校名・校舎名募集ということで、義務教育学校ではあるが、校舎が今の中学校、小学校の校舎を使用するため２つの校舎があることから校舎名も同時に募集する形にさせていただいた。また、保小中一貫教育目標も書かせていただき、この目標に沿った名前はどういう物がいいのかということをご検討いただくということで、このチラシの案を考えている。

＜募集要項について＞

応募資格は、江府小学校、江府中学校の児童生徒及びその保護者の方、江府町在住の方、江府町出身の方、それに加えて、江府町のことを大切に思ってくださる方、応援してくださる方というのは実際あるとの話もあり、「江府町を応援してくださる方」と

いうことで、いわゆるその町出身でない方にも、応募をしていただくということで考えている。

募集期間は、６月いっぱい１ヶ月と考えている。募集内容は、学校の名称、その校名に込めた想いや願い、また、校舎の名称、校舎名に込めた想い・願い、それぞれ書いていただいても、両方書いていただいてもよい。そういった形にさせていただいた。

応募基準は、「わかりやすく、親しみやすい、校名・校舎名であること」「江府町”保小中一貫教育”の理念、新しい学校づくりにふさわしい校名・校舎名であること」「漢字、ひらがなまたはカタカナを使用すること」「一人につき１点の応募とすること」「特定の企業・宗教・団体・政党などを連想させるものは対象外となります」と基準を作らせていただいた。

応募方法は、必要事項を記入した応募用紙（チラシ裏面）を下記事務局まで直接ご持参いただくか、郵送・ＦＡＸ・メールでお送りいただくということにしている。ホームページにもあげて全国の方にも見ていただき、メールや郵送で送っていただくといったことも考えている。

その他、校名・校舎名は準備委員会で選定ということ、必ずしも応募数の多かった校名・校舎名に決まるわけではないということ、決定した校名・校舎名に関する一切の権限は江府町教育委員会に帰属するということ、氏名・連絡先等は校名・校舎名選定以外の目的で使用しないこと、選定結果は、後日、広報誌・ホームページ等でお知らせすることを記載した、このようなチラシを考えさせていただいた。

資料に要項もつけているので、そちらのほうも見ていただきたい。現在の案としてはこういうものを考えている。ご意見があれば伺いたい。

委員長　今説明をいただいたが、ご意見をいただければ。だいたい網羅してあると思うが。

意見がないようなので、これで。

委員　校名が決まったあと、表彰もあるという話だったが、記念品など何か出たりするのか。

事務局　応募作品についてということで、要項のほうの４ページ６番応募作品についてで、（教育委員会に）帰属することと、多かったものに決まるわけではないという２つにしているが、参考にした江山や鹿野は、ここに採用された名称の応募者には記念品を贈呈するとなっている。昨年もその話題が出たということだが、予算要求をしたところ、はっきりとしたことが決まっていない段階で予算を組むことは難しく、必要に応じ補正予算で挙げてほしいとのことで、準備委員会の予算は皆さん方の報償費のみ組んでいる状態となっている。ここで皆さんが記念品を贈呈する方がよかろうという話になれば、あらためて補正予算にあげて、記念品を準備させていただきたいと思っている。

委員長　よろしいか。

委員　町内には、大々的に６月１日から公募するという感じであるが、応援してくれる方にはどういうふうな形で。

事務局　町のホームページにあげて、見ていただくというような形になる。江府町のホームページにアクセスしてくださる方は、応援してくださる方でもあろうということで、ホームページにあげるということが一番広く周知することにつながるかと。

委員　　町外には大々的にしないが、外にはしないということか。

事務局　　ホームページには載せる。町内に関しては、このチラシを、今の予定では小学校、中学校、役場、教育委員会、そこに置き、そこから取って書いていただく形を考えている。

委員　　大人向けにはこれで十分だと思うが、１年生とか、小さい子どもたちがこれを理解するのに自分で字が読めないから、これとは別に子ども向けの簡単な募集要項みたいなものができないか。６年生レベルでよい。１年生２年生にはなかなか難しい。書くのはこの用紙を使うとして、何か小さい子にでもこういうことがあるんだなぁというのがわかるようなのがあるといいと思う。募集要項自体はこれでよい。中学校はこれでいいと思うが、６年生でも自力で読めるかということなので、もちろん教員が説明をして、学校で書かせることになるのか。それとも家に持って帰って書くのか。

事務局　　形はどうでなければならないということではないと思うが、これをきっかけに、小学生、中学生にも義務教育学校というのが始まるんだということも知ってもらいたい、そこに対しての期待を高めるようなきっかけにもなっていけばと思っている。担任の先生から説明していただくということで、これ以外にわかりやすいポスターのようなものをつくるということは可能。そのようなものを活用していただきながらということかなと思う。

委員　　わかりました。

委員長　　低学年用に。

委員　　簡単でいいので。募集要項まではいらないと思うが、こういうことだというポスターでもいいし、たとえば各クラスにこれを貼りながら説明すると。そしたら小さい子もちょっと参加できたり、わからないまでも、参加した感じになる。大人の人はこれでいいと思うが、小さい子は置き去りかなというのはさびしい気がする。

委員長　　これは応募者用に持って帰れば親も一生懸命考える。

事務局　　保護者用に持って帰っていただくことも思っている。

委員長　　学校では、低学年の児童の皆さんには担任のほうから少し話を導入していただき、とりかかるというようなことをお願いしたい。かみ砕いたアンケート用紙で作ってあげていただきたい。

委員　　確認だが、準備委員会の委員は、選定をする立場であるので応募はしないということか。

事務局　　アイデアをお持ちの方があれば、ご家族に話をしていただくようなことはあるかもしれないが。（要項に）記載はしていないが、そういったことで対応していただくほうがいいと思う。

応募用紙にその応募者の欄があって、そこを伏せてみんなでアトランダムにこう選考という方法はありかもしれないが、結果的に委員さんのが採用になってしまうと、それはそれで疑われたりするのもよくないなと思ったりもするので、ご遠慮いただいたほうがよいかもしれない。

委員　　応募資格の中に、教職員は入っていないが、入れてもらった方がよいかなと思うがど

うか。ここの中にないのはちょっとさびしいなと思う。江府町を応援してくださる方の中でということなのかなと思うが。なんかないのもさびしいなと。いかがか。

委員　私たちは委員だからできない。

事務局　教職員までは入れなくてもいいことに。応援してくださる方で。

応援してくださる方ですよと校長先生からお話しいただき、参加資格はありますよと。ここにわざわざ先生までは記載しなくてもいいかと。

応援するために応募しましょう、参加しましょうと声をかけていただくと、先生方も応援をするのだという気持ちになっていただけるかなと思う。ここに先生方がないから「自分は知らん」とならないような形がいいと思う。ぜひ校長先生方からそういった声かけをお願いしたい。

副委員長　今、「低学年にもわかるように」ということがあったが、そうだなぁと思ったのは、学校で、義務教育学校というのができるよ、名前を考えようねというときに、どういう説明をされるのかなということを思った。子供の国保育園では、園児たちも考えてほしいなとか。園児が考えるというのは「楽しい学校」ということになるかもしれないが、小さい子どもなりに、楽しい学校がいいなというような夢を持ってほしいなと。それがそのまま学校名になるわけではないが、幅広い子どもたちの思いが集まった名前ですというふうにするためには、小さい子どもにも、地域の方にも、どのようにこの義務教育学校というものをとらえてもらって、名前を考えてもらうのかというところがいるかなと思った。

　これから、令和４年４月に義務教育学校になります、ふさわしい校名となってるが、目標を書いてはあるけれども、もっとイメージが沸くような、こんな学校になったらいいなぁという、夢がふくらむような、そういう説明がちらっとあるといいのかなと。学校や保育園にはどんな説明をしてもらったほうがいいかということも、こっちがもっていないといけないのかなという気がする。義務教育学校ができるから名前考えてねだけでなく、「行きたいなぁ」と思うような仕掛けがいるのかなぁと思った。

委員　教員が説明するにあたって、どう説明するのか。それぞれ違った口で言うのは良くない。こういう学校にしていこう、しかもみんなで作るんだというような雰囲気で、先生も子どもも大人もみんなでやるんだよというような雰囲気が出たほうが、期待感とかやる気がでてくる。ポスターの中にそれが盛り込んであるとか、何かあるといい。

事務局　子どもたちの期待がふくらむようなという部分かと。そういったところを加味したポスターというか。

委員　応募用紙はこれでいいと思うので、説明の時に使うポスターであるとか、ちょっとした、こういう文言を入れて説明するとか、キーワードがあるとかそういうのがあると。教員も小さい子にもわかるように。

事務局　この用紙を置く場所は小学校、中学校、役場、教育委員会で受け取れるとしているが、先ほどの話を聞くと保育園もあってもいいのかなと。委員さん方も保育園の代表で来ておられる。置くことは、園長先生、特に問題はないか。広く町民さんに知ってもらうという意味でも、そのほうがいいのでは。

委員　　２年後に入ってくるのは保育園である。入学してまさにその年。２年後にはその子たちが入学式を新しい学校で迎えるということ。

委員長　　いろいろとご意見いただいた。低学年の子どもさんもいらっしゃるし、５年６年、中学生もだろうと思うが、副委員長さんが言われたように、楽しい学校にしようというその雰囲気が表れていたほうが、文言として一行くらい写真の横のほうに少し大きめの字を入れていただいて、楽しい学校にしましょうとかしますとか、次の会までに決めていただければと思う。

委員　　園児が応募したいと思った場合は？

事務局　　江府町在住の方で。在住ということで。

委員　　園長にも意見をいただきたいが、先ほどから、小学校低学年とか園とかいう話が出ているが、教育の一環という形で、園児たちが参加する方法はとれるのか。それはたぶん小学校も中学校も同じとは思うが、一般的なのはこれで十分だと思うので、あとは小さい子向けのものがあればいいのかなと思う。先ほどのこの日程からいくと６月１日からもうやりましょうという話なので、一般的なのはもうこれでよくて、あとは、園児向け、小学校向け（が必要）。中学校はこれでいいだろうが。作っていただいたのを６月３０日までに提出なり受け取ればいい話なので、それに対応する形で作っていただけばいいのかなと思う。（保育園でも）こういうことを教育の一環という形でやってもらえるのかどうか、それがやってもらえるんだったらそういう対応でいいのではないかなというふうに思うがどうか。

委員　　未満児に説明というのは難しいと思うが、３歳以上児くらいにはわかりやすく説明して、あとは保護者さんにお手伝いはしていただかないとなかなか難しい面はあるかとは思う。

　園児に義務教育学校がどういうものかとは説明してもどこまで理解ができるかというのはちょっと不確かなところはあるが、できる限り対応はしたいと思う。

委員　　先ほどの話で、２年後に入学する子は子供の国保育園を卒業した子だというふうに考えると、ある程度一緒に参加したっていうのがいいんじゃないかなと思う。保護者会としても必要があれば協力するので、考慮していただくといいのかなと。

委員長　　保育園の年長さんくらいは考えられるかなと。年長さんくらいでお話を。簡単に「楽しい学校をつくりましょう」ということで、「名前考えてください」ということで。説明が難しい面はあるが、そういう雰囲気を説明していただいて。小学校の低学年も、義務教育学校と言ってもわけわからんというのは大変失礼ですけれども、説明をうまくしていただいて。要するに、楽しくみんなが頑張れる学校にするためにはどんな名前がいいかというようなことの提案。何か文言や意見を今伺った方がよいか？

事務局　　事務局のほうに任せていただいてもよろしいか。

委員長　　了解。

宿題が一つ残っている。記念品。大きなことは考えてはおられないとは思うが、記念品をつけたほうがいいのかなと。子どもたちのためには、張り切りようが違うかなと思ったり。補正予算、そんな大きなものではない感じの金額になるのではないか。

事務局　何十万もするようなものにはならないとは思う。ただ補正予算であるので、通らないことにはそういった記念品をお渡しすることはできない。現時点で予算がついてないということになると、ここにあげるのは難しいのかなと思う。採用された方に対して準備をしていくという意味で、記念品があったほうがいいということになれば、他の学校での様子などもここで報告させてもらいながら、記念の品を決めさせてもらうことになるのではないかと思っている。要項的にはちょっと。

委員長　行政の固いところ。記念品のことは決めてよいか。

委員　皆さんと同じような意見になるが、これから直接携わる児童の皆さん生徒の皆さんが積極的にどんどん関わって、自分たちのことであるし、江府町でこれから大きくなる園児の方も積極的にどんどん意見が飛び交うような、生徒さんからもどんどん取り入れられるような声かけなどしていただけたら、自分たちのことだなと、自覚を持って夢を描いていけるんじゃないかなと。

委員長　では、一応、校名・校舎名募集についての協議を終わりたい。お気づきの点があればまた出していただいて。

では、続いてブロック制について資料説明をお願いしたい。

事務局　昨年の推進検討委員会でも、ブロック制については、この準備委員会で検討するとなっていた。資料をご覧いただきたい。

保育園の保護者会から、昨年度６・３制、５・４制を検討するにあたり「資料がないか」ということがあり、前任者の現在江府小山本教頭先生が作成したもの、それをつけさせいていただいている。保育園の保護者会におられる方はすでにご覧になっているかと思う。この資料を使って、少し説明をさせていただく。

「６・３」、「５・４」という話が今までもあったと思うが、６・３制については皆さんも経験されているということからイメージもあると思う。こちらからは、いわゆる５・４制のことについての話をメインでさせていただく。それを受けて皆さんでご協議いただければと思う。

＜江府町立学校の現状と今後の展望＞

【現状】

・児童生徒数は以前に比べると減少
・子どもたちの発達状況が変化し、早期に大きくなるという状況
・児童生徒数が減ることによる、多様な人・価値観とのかかわりの不足
・人数が少なくなることによる学習生活行事の面での活力の低下
・個別に支援が必要な児童生徒数の増加
・身体的な発達の早期化
・学力観の変化（指導要領の改訂）
・アクティブラーニング（主体的で対話的で深い学び）を学力とするとらえ
・小学校の５・６年生に外国語科を導入、３・４年に外国語活動を導入。プログラミング教育の導入。さらなるＩＣＴ、パソコン等を活用した学習の展開の必要性
・令和４年度に、小学校高学年に教科担任制を導入するという方向性

・教職員の働き方改革（長時間労働の改善）
・教職員数の減少
・（教職員に）求められることが増加していくということの問題
・大量退職に伴う若手教員の増加
【展望】
<子どもたちに自信と誇りと経験を>
子どもたちには自分に誇りをもたせてやりたい、そのための経験を積ませてやりたいと思う。児童生徒数が少なくなる中で、ある程度の集団の規模を確保してやることは必要なことだと考える。より多くの仲間たち、より多くの信頼できる大人たちがいることで、多様なかかわりを通して子どもたちが育つということを考えていかなくてはならない。また、異年齢との関わりをすることで、憧れや思いやり、そういった気持ちが育つ学びの場を作っていくということも必要である。個別の支援が必要な児童生徒の増加という話があったが、子どもたちをいろんな面でみていく、そういう多角的な視点というのがこれからの教育には必要だと思う。いろいろな視点で見られる学校、教職員も当然必要になる。幅広い社会で活躍できる人材を育成していく、これも大事な教育の目標である。
＜将来にわたって必要とされるこれからの学力＞
予測困難なこれからの時代、まさにコロナウイルスもだが、自ら課題を見つけ自ら学び自ら考え自ら判断して行動し、よりよい社会で人生を切り拓いていく力。コロナウイルスについても言われることだが、守るだけではなく自分たちがどうしたら感染を予防できるのかというようなこと、加えて人権的なことも含めて主体的に考える機会にするというような話も出ている。自分で考えるということが重要だということを改めてこのコロナウイルスを通して感じたところ。また、新しい学習指導要領では、評価の視点として学びに向かう力とか人間性、思考力・判断力・表現力など、従来の知識理解だけでなく、そういったものもしっかりと評価をしてくというような方向に学習指導要領も変わってきている。
＜持続可能な江府町であるために＞
この江府町がこれからも続く、そういった江府町を担う子どもたちを育てていくということが大事だと思っている。自分の町を誇りに思う子どもたち、これからの江府町を支えられる人材を育成していくという、そういうことを通して、子どもたちが地域とかかわるということが進めば、今度は地域のほうも活性化していく。これは、コミュニティスクールのほうの話し合いでも出てきたが、そういったものも、これから必要になっていくだろうと思っている。それを受けて、学校の形はどうあるべきかということであるが、５ページをご覧いただきたい。

教育委員会としては、５・４制が今の江府町の子どもたちには非常に教育効果が高いのではないかと考えている。
まず一つ目は、児童の心身の発達段階に合致するということ。早熟化という言い方が

正しいのかわからないが、以前何十年も前の６年生に比べると、年齢的にも精神的にも早く成長しているのは明らかである。６年生になった段階で中学生と一緒に過ごすということで、精神的な発達段階に合致した教育できるということ。その中で、中学生の子どもたちの進路を意識する姿を日常的に見ることで、自分自身のこれからの進路、そういったものも５・４制にすることで一足早く感じ、考えることができるのだと思う。江府町の場合は子どもたちの人数も少なく、落ち着いているところもあるが、ある意味刺激が少ない。米子のほう、いわゆる街の中学生たちは塾に行くということもあり、やはりそういった進路意識という点でも刺激が少ないのが江府町ということを考えた場合に、早い段階で進路意識を持てる、そういう環境が提供できるのが５・４制ではないかと思っている。また、６年生がいなくなることで５年生が小学校舎のリーダーになる。今まで、６・３制で６年生が最上級生として全校をリードしてきた。これはある意味６年という枠組みの中で最上級生が６年生だったということだと思う。それが５年生になった場合に、５年生が最上級生としてリーダー性を発揮するということは、十分に期待ができるところ。保育園でもぞう組さんが年長になると下の子の面倒をみないといけないという姿がでてくるのも、やはりリーダーという責任を自分で自覚してそれを意気に感じて頑張ろうという姿だろうと思う。
二つ目は、ある程度の人数を確保するということ。集団規模の確保という点でいうと中学校の生徒数は少なくなってきているが、それが緩和されるということがある。
もう一つ、６年生の教科担任制が容易になるということ。ご存じのように小学校はいわゆる学級担任で、中学校になると教科担任という形になるが、先ほど言ったように、成長が早いということになると、子どもたちの知的好奇心からも幼いものでは物足りないという部分も出てくると思われる。そうなったときに、中学校の専門的な知識をもつ教員がその教科を教えるということは、子どものニーズに合うと。そういう指導をしやすいのは５・４制だと考えている。
また、５・４制にすることで従来の６・３というラインをとりはらうことになるので、教職員の交流というものが必然的に生まれ、新しい学校文化というものをつくっていけるのではないかと思う。
その他としては、小学校のほうは、江府小はずっと１クラスであったので、空き教室というのがほとんどないが、６年生が中学校の校舎にいくとなれば、空き教室も増える。
部活についても、これは今後の検討課題ではあるが、仮に６年生の段階で部活に参加となれば、大会は難しいが、運動などの機会にするということも可能だと思う。

一方で、ずいぶんとスタイルが変わるわけで、不安に思われる方もあると思っている。保護者も教職員も私もだが、経験がないという形。それはある意味心配でもあり、不安な部分でもあるかと思われる。今後皆さんでご協議いただくことになるかと思うが、６年の担任が一人だけ中学校に行くのかとか、部活の指導は誰がするのかとか、教科担任制はどうなるのか、制服は、登校班長は５年生で大丈夫か、そういった心配もあ

ろうかと思う。実際に６年生の子たちが中学校にいった場合には、授業の時間はどうなるのか、休憩時間はどうなっていくのか、リーダーシップはどう変わるのか、水泳、陸上といった小学校でやってきた取り組み、そういったものはどうなっていくのか。加えて小学校は当然だが人数は減っていく。そういった心配な部分もあろうかと思う。そういった心配な部分を、ひとつひとつ確認していって、こういうふうにしたら心配はとれるねという形で、先ほど副委員長からもあったように、新しい学校が始まる、ワクワクするなぁという気持ちになれる、そういった学校の形をみなさんでご協議いただけたらと思っている。

７ページは、令和元年の１２月、５カ月前に中央教育審議会の初等中等教育分科会で話し合われた、「新しい時代の初等中等教育の在り方の論点の取りまとめ（概要）」の一部を抜粋したもの。義務教育９年間を見通した教科担任制の在り方についてということで、小学校高学年の児童の発達段階、新しく始まる外国語教育をはじめとした教育内容の専門性の向上などを踏まえ、令和４年度、まさに江府町で義務教育学校が始まるというその段階で、小学校高学年から教科担任制を本格的に導入すべきであると文科省の中央審議会が取りまとめをしている。これを読むと、江府町は文科省が言わんとしていることを先取りし、９年間を見据えた教育課程を考えていこうとしている（ことがわかる）。昨年度推進検討委員会で江府町の子どもたちへの教育をどうすべきかということを検討していただいた結果に、文部科学省もやはりそうだというふうに後押しをしているという見方もできるかと思う。当然、整備していくことも必要になってくる。教員定数の確保の在り方、小中学校の連携の在り方、９年間を見通した養成、採用、研修、免許制度、人事配置の在り方、教育課程の在り方等。ある意味これから義務教育学校を目指すにあたって、検討していかなくてはならない課題に対して文部科学省のほうが、こういう形ですすめていきましょうということを今後取りまとめて示してくれるものと思う。そういう点では、高学年において教科担任制、それが一部になるのか全てにおいてになるのかわからないが、それは時代の流れだろうと。最初なので長くなったが、今の説明を踏まえてご協議いただければ。

委員長　ありがとうございました。

教育委員会とすれば、義務教育学校に合わせ、それに適応するためには、５・４制がよいという考え方をもっておられて提案していただいた。６・３制は今までどおり、小学校６年、中学校３年ということで、小中の連携はとるにしても、離れたままでやりにくい面もあり、教科担任制ということも今説明があった。

中学校で１週間、家庭科・音楽を持っていて、１週間に３時間もっていて給料もらっていると。極端に言えば。違うかもしれないが。そうではなくて小学校に行ったり来たりしながら、小学校の先生方２０何時間が普通であろう（がそれを）平均化できる。専門的知識を持つ教師が、入り込んで指導して小学校で力をつけておいて、中学校にあがっていくというようなこともある。

５・４制にすることが、教員の働き方改革になるという説明があったと。いろんな意味で、働き方改革というのはやっていかなくてはいけないと思う。日々遅くまで残っ

てやっておられたり、早く帰れと言われれば、仕事を持って帰るという状況ではないかと思う。そうではなくて、働き方改革をやっていかなくてはいけないということになれば、そういった形で５・４制にすれば、より働き方改革になるのではないかという気がして聞いていた。

今説明があった内容で、質問なり意見なり両方含めて話を。

江府小は６年生に力を入れて、担任も頑張っておられるし、学校全体としても６年生の行動力から一生懸命頑張っておられるので、そこに集中、そこだけではないが、力を入れておられ、いなくなるとさびしいなぁと感じられるかもしれないが、先ほどの説明の中で、６年生がいなくなったら５年生がぐっと伸びてきたと。教育ジャーナルという雑誌にも書いてあったが、心配したけども、そんなことはないと。５年生が伸びてきたということが書いてある。さびしい面もおありかもしれないが、そのあたり、割り切って考えていただければありがたいなと思っている。

委員　江府小学校では、総会はできなかったが、本来ならば総会の時にこの義務教育学校の説明を一緒にさせていただこうと思っていたが、コロナの影響でできなかった。そのときにアンケートを文書配布でさせてもらった。その中で、回答が返ってきて、どちらがよいと考えますかという問いに、６・３制が良いという家庭が半数以上、５・４制が良いが６家庭とかその他の６家庭くらいおられた。その中の理由として、メリットデメリットがよくわかってないとか、５・４制にしても、よくわからないけどするのであればそっちのほうが意味があるのではないかなど意見もけっこうあった。どちらにしてもこの状況で説明会等も開きづらい状況だが、しっかりと周知を徹底して。保護者でわからないという方もおられるので、町民の方ももっとわからない方もおられると思うので、さらなる説明を周知徹底で。このブロック制はけっこう大きな問題。前回説明会を何回か開いたときに、ここが決まらないから、説明の返しようがないです、ごめんなさいという感じでしか僕らも言えず（だった）。しっかりと説明、周知徹底していくような形でもっていければなと。

委員　小学校として、意見が言えない。僕ら説明できない。６・３ではなく５・４にする意義が。必ずこういうふうになりますよ、ここが良い点ですよ、こういう悪いところがあるけれど、こういうことをしなければならないんですよというところにもっていく説明をする内容がない。保護者にアンケートをとっても、保護者も新しいことをするのは面倒くさいから、６・３のままでいいですという意見のほうが多いみたいだ。持って帰って「こうですよ」っていう何かがあれば、説明して必ずこういう風になりますから５・４にしてくださいっていう説明ができるかもしれないが。そういう意見が僕ら自身が出せない。だから僕らも意見が出せない。みんなはこんな感じですよというくらいしか持って帰れないので。

副委員長　今おっしゃったように、そうなんだろうなと。今日会議したでしょ、どうだったのというときに、まだすっきりわからんわ、みたいな感じだとあまり意味がないのかなと思う。この委員会の中で、６・３なのか５・４なのかどちらがふさわしいのかというところの合意ができていないと、それぞれの PTA にも返していけないと思うので、そ

の意味で今の事務局のお話を聞いて、自分はそうだなというふうにすとんと落ちる部分は多かったが、もちろん、これはどうなんだろうという部分はあるにしても、すとんと落ちるところはあった。

今日、皆さんがこっちだと決めるところまでいかなかったとしても、６・３は経験しているからわかっているとしても、５・４の良さはなんだというようなことや、そこを理解してもらって、それでどうなのかといったところを、先ほどは、自分の意見を持って帰る、今何もないとおっしゃったので、自分自身の意見をもってもらえるような会に、今日しないといけないのだろうなと思いながら話を聞いていた。今事務局がおっしゃったことの中で、すとんと落ちない部分や、これはどうなっているんだろうという部分があれば、ここで出しておいていただかないと進まないのかなと思うが。

事務局　昨年の推進検討委員会の中でも、（ブロック制は）けっこう重いという話があり、１回ではなかなか難しいだろうという話もあったので、少し一旦置いて考えてもらうという話が出た。スケジュールでは４月、５月という形にはなっているが、４月はコロナもあって、十分に協議をしていただくような時間もとれなかったので、説明も今回初めてさせていただいた部分もあり、いろいろお考えをお聞かせいただいた上でというふうに思っている。

委員長　わかりにくい部分があれば出していただいて、わかるようにして帰っていただいて保護者のみなさんに説明ができるという形がとれれば一番いい。保護者全体でアンケートをとってというような去年やったような後戻りはしないので、このまま委員としての意見をいただいて、この場で決めていくという形をとっていきたい。確かに、今までやったことのないことは不安になるのは当然。僕も経験はない。

いろいろ僕なりに勉強してみたり本を読んだり雑誌を読んでみたりすると、やはり義務教育学校にするということは５・４にするということに通じる。先ほど言った、６年生がいなくなってさびしいということもあるが、６年生が中学校に行って、中学校が４学年に増える。入ってきた１年生、２年生、３年生、４年生。４年間に自分の進路、本当に何が自分に向いているのかというのをじっくり考えさせる時間を十分とれる。中１から２、３、４とだんだん上がってくるにつれて、だいたい方向性が決まって、自分はこの方向でということになれば、例えば医者でということになれば、医者がだめだったらアウトなので、医者に関する、あるいは看護師さんになるとか薬剤師さんになるとか、そういった方向でという方向が決まってくると思う。自分はあれになりたい、これになりたい。それをじっくり４年間かけて考えさせる。もちろん、学力もつけていかなくてはならない。学力もつけなければならないが、全員が１００点とるというわけにいかないので、９０点くらいとれる力があるお子さんは１００点とれるように教育してほしい。いくら頑張っても５０点しかとれないというお子さんがあるならば、あと２０点、７０点をとらせるようにしようじゃないかということで、それぞれ伸ばしていく、それが４年間の教科担任制でできていく。そういった中で、自分は将来のことを考えたら農業をやりたい、白洲次郎じゃないけれども、農業やりたいという子どもさんも出てくると思う。僕は東京に出て電子関係の所に行って、や

がては帰るかもしれないけど出ていくという人もあるであろう。選択の幅ができるように力をつけていかなければならないと思う。いろんな教科の先生方が、この子の進路を考えた時に、この教科をもうちょっと伸ばしたいとか、進路の幅が広がりますということを指導できると思う。みんないいけど、中には英語だけがというのもある。英語の力をつける、英語の先生だけじゃなく担任もだし、周りの人も。4 年間で自分の進路に向かってやっていく。そういう教師集団にならないといけない。

副委員長　みなさんの不安なところとか聞いてみては。出した方がいいと思う。みなさんがどう考えておられるのかが見えなくて。我々が５・４制を推しているみたいなところで。

事務局　５・４制のこういったところに良さがあるというところで今初めて説明させていただいた部分もあると思うので、お聞きになられて、思いとか、疑問点とか出していただくといいと思う。

委員　児童のみなさんはもちろんであるが、先生方も５・４制にすることで、メリットデメリットは考えておられると思うが、どうしても保護者だけでは見えない視点であるので、そこから５・４制にすることでどういったメリットが大きくあがるのか、逆に言うとどういった点がすごいデメリットになるのか、お聞きできたら。それについても、５・４制になったとしてもその中でその都度知っていきながら改善できるといいのかなと思う。

委員　すごく熱心に（話し合われて）すごいなあと。学校にいたら、中のことはよくわかるので、事務局の説明で、本当によくわかる説明をされたなと思っている。副委員長も学校の教員なので、どちらの良さもどちらの課題もわかっておられる。ひとつ例をあげるとすれば、小学校の良さ、小学校の教員が持っている資源というか力、学級担任制で子どもをよくみて、わかっていろんな教科を薄くではあるが、全体をみていくという特性をもった教員と、中学校のように、大きいので、手取り足取りはしないので、自分でしなさいというところ。そういう教員だけど専門性が高いと。そういうところが融合するという意味では、すごく利点があるとは思う。やり方がどうなのかというのはすごくある。ここに例があがっているが、6 年生の担任がポンと行くのかと、教員も予想がつかない、自分だけが６年生をつれていくのかというイメージ。中１は卒業するので中１はいい。６年生も一緒に行く。6 年生は担任と一緒に向こうに行くんだなぁみたいなイメージをもつ。その時に、うまく組み合わせること。６年生の担任がもっている全体をみる力、特性を活かす力とか。中学校の先生がもっている専門性、音楽とか英語とか美術とか、組み合わせるとバッチリというか。知的好奇心（に応える）という意味では、担任が小学校の先生だと、得意じゃない教科を音楽なんか教えているわけで、ちょっとつまらないなと思う子もいる。そこで中学校の先生が入ってくださると、楽しいな、こんなことができるんだって楽しくなるということもあると思う。そういうふうに組み合わせることでとても良いと思う。逆に、ポンと中学校に行きました、子どものことをそれほどわからないとして、さぐりながらやったとして、突き放してガッと落ちてしまう子も中にはいるので、小学校が細かく見てほしいなと思っている子が落ちてしまうということがあって、そのあたりで本当にう

まいことやれば、どっちもうまくいけると思う。それは、組み合わせ方。担任が不安に思うことは、一人行くのではないかと思うから、敵陣にのりこむみたいなことになるといけないので、私が自分で希望するとしたら、もうちょっと教員を入れ替えるとか、教育長はよく言われるが、加配で入れたいとか昔よくあったが、教員をもっとバンと入れ替えるとか、管理職も入れ替えるとかそれくらい大がかりなことをすれば、中学校の教員が小学校にいって初めてわかったこととか、逆に小学校から中学校にいって初めてわかったこととか、そういう大がかりなことをして、大なたをふるって、いい学校にするということもできるかもしれないと思う。ただ、ひとつ、距離があるということはデメリットになる可能性がある。できると思っていたのに、行き来する時間があって、それが結局できなかったということにならないように、そこをうまく組み合わせたりとか。あと、５年生にも理科の先生がいたりとかできたらいいかなと思うので、教育委員会のみなさまと、人事とか組み合わせとかその辺の構想が、すごく効いてくるのかなと。

教員にアンケートをとった。保護者も。数としては、６・３制が良いという意見が多い。でも実は、ベテランの先生が５・４制が良いと言っている。若手の人たちは、６・３制が安心だなというふうに思っていて、ベテランが、やるんだったら新しい学校にした方がいいということ。それはどっちも良いと思うが、そこはうまいことやるということだと私は思う。

委員　中学校のほうも、小学校と同じような職員にアンケートをとってみたが、今６・３制でやっているので、５・４制に対する不安はすごく大きいように感じる。来年度から３学年３学級になる。職員数も減り、３学年の授業をもつ教員が多くなると思う。現在３学年持っている教員もいる。理科と国語。時間数だけで言うと、余裕があるように見えるかもしれないが、授業研究だとか事前の準備だとか、大きな学校で同じ時間数もっている人と比べたら、１学年１学級ずつしかないという学校は、余分にエネルギーがいるっていうことになる。実際、英語は３学年とも４時間ずつ１２時間ある。これがもし担任を持っていたとしたら、総合と道徳を入れると１６時間ということになる。もう一つ学年を持つというのは難しいかなと。Ｔ１でもつのは難しいかなと。人の配置については、教科担任制で配置の見直しもあったりすると思うが。私個人としては、６年生が中学校の校舎にいて、全ての教科ではないけども、６年の担任の先生と一緒にやるとか、６年担任の先生が中学校の免許がある方がおられたらそこはだしあいこできるし、助け合うことができるかなと思う。義務教育学校は、小学校、中学校、両方の免許を持っている人が望ましいので、そういった人が、江府町の義務教育学校に配置をしていただくといいかなと。

副委員長　メリットデメリットというような話もあったが、実際来年度から中学校では、教員の数が減るという問題もあり、教員の負担も増えるだろうということが実際あるということで、今後改善していく見込みはないとして、この義務教育学校になった場合に、教員の定数が増えるというようなことや、お互い補完しあうということで考えても、教員の負担というようなこと、一人減るとか一人増えるとか、もろに子どもの指導に

かかわってくるところなので、その部分でも、そういう現状があるということが出てきた。

委員（小学校校長）から、それぞれに不安はあるけれども、５・４制になった場合のメリットもあるなということを今考えておられるということも話があったのかなと思うが、まだご意見聞いていない方もいらっしゃるので、今日これだということは残り何分でという世界ではないと思うので、ここでみなさんがどのような思いをもっておられるかというのを出していただいて、次回の委員会では、こんな話をしていけばいいのではないかということを考えらえるのではないかと思うので、いかがか。思いを出していただければなと思うが。

委員　子供の国保育園では、事前にこの資料をいただき、一応現執行部と前執行部、前執行部は全員ではないが、コロナの関係で意見交換するような場も持とうと思っていたが、結果的にできなかった。小学校さんがアンケートをとられたが、その意見は率直な意見だと思うし、その中で私は資料を持って私もわからない中で説明をさせてもらったが、結局どちらがいいのだろうとみなさんわからないままで、ご意見があったらまた言ってくださいという話で終わった。

私は、個人的にはなんとなく、生徒数とか校舎のキャパとか、そういうのを考えて、あと、義務教育学校にするというのを考えると、やっぱり５・４制かなというのを個人的には思っていたが、中教審でこのようなものが出ているのを見ると、教育の専門家としては、その流れのほうがやっぱりいいのではないかと考えてこういうものが出ているので、我々一般の人はよくわからないけれども、専門家がそう考えるのは、それなりの根拠があることなので、それなりに重いのかなと思った。

ただ、小学校さんがアンケートとられた時に５割が６・３制のままがいいという話が合った中で、なぜ５・４制かという理由がわからないというのがあったので、そこはこの資料をみればわかるといいながらなかなかわからない部分と。あと、変わることによって、ちょうど６・３制と５・４制の狭間になるような生徒さんがおられて、たぶんその保護者さんは、変わることに対してすごく不安があると思うので、そこは詳しく検討してみないとどんな対応ができるかわからないにしても、その辺のケアをしっかりと考えていただいた上で、５・４制がいいですよというような、５・４制のほうがメリットが大きいですよという方向にもっていけば、保護者さんの意見も、今は６・３制だけど、そういう専門家の方も言っておられると、あとこういう資料を見ると５・４制なのかなというのが、思いやすいと思うので、不安になっている部分は個別に書いてあると思うので、その辺を示していくということがたぶんアンケートに対する回答になるのではないかと思うので、その辺は逆に教えてもらっておいたほうがいいのかなとは思う。

委員　おっしゃる通りだと。子どもと教育委員会と先生たちとウィン、ウィン、ウィンで、決まった状態で、わかるように説明さえしてくだされば、PTA で話ができるし、こういう理由でこうだと。みんなが納得できる説明があれば、それでいいのではないかなと思う。

副委員長　今おっしゃったように、今後みんなが納得できる形にできるかどうかというところがカギだと思うので、今日は結論が出たというところではないと思うが、この資料もあるので、次回までに考えておいていただいて、また次回話し合いをしながら、合意ができていけばと思う。まだ伝えてないというようなことはないか。
委員長、今日は時間になったので、ここまでかなと思う。

委員長　時間がきました。熱心にご協議いただいた。お疲れのところありがとうございました。
今年度第１回が終わったが、第２回のスケジュールを確認して解散にしたい。

事務局　今日、ブロック制のことも出たので、一月後くらいかと。
校名募集については募集期間中であるので、どれくらいの応募数があったかくらいの話にはなるかと思う。
ブロック制や、他にもご協議いただかないといけないこともあるので、月に１回ペースでと考えるとそのあたりかなと思うが。
２２日から２６日の週で。２２日は小学校の会議が入っているので連続しないほうが。
２５日か、２６日でどうか。

副委員長　２５日か２６日で希望をうかがいたい。
（２６日多数）
２６日で。

委員　先ほどの校名募集の小さい子向けのものはだいたいどれくらいで。一週間以内であれば、それから募集にかかると。小学校や保育園とか。ある程度メドを。だいたいどれくらいにいただいて、説明を始めて応募するか、スケジュールを確認したい。

事務局　来週の半ばくらいまでには、ポスター、保育園にも掲示できるようなものとか。説明に使っていただけるようなものを準備したい。

委員　では、３日ということで。

委員長　お疲れのところ、ありがとうございました。

〇第２回委員会

①日時：令和 2 年 6 月 26 日（金）　19:30～21:00

②場所：江府町防災・情報センター　２階　研修室